

自彊前進

題字 西村直子

NO. 48 令和6年3月4日(月)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

「旅」

附属中学校では「修学旅行」ではなく「旅」と表現します。なぜでしょう？広辞苑では次のように説明しています。

【旅】住む土地を離れて、一時他の土地に行くこと。旅行。

【旅行】徒歩または交通機関によって、主に観光・慰安などの目的で、他の土地に行くこと。たびをすること。

辞書の定義では、同じ意味のように感じてしまいましたが、皆さんのイメージはどうでしょうか？旅と旅行の違いについてインターネット検索をしたところ、『旅と、旅行と、観光と。3つの定義 | 林 幸史 - note』というサイトがヒットしました。そこには、次のように記載されていました。

(前略)「旅」と「旅行」の概念的相違については、古くは民俗学者の柳田国男(1927)が『旅行の進歩および退歩』の中で次のように述べています。

旅はういものつらいものであった。以前は辛抱であり努力であった。その努力が大きければ大きいほど、より大なる動機または決意がなくてはならぬ。だから昔に遡るにつれて、旅行の目的は限局せられている。楽しみのために旅行をするようになったのは、全く新文化のお陰である。

白幡(1996)も『旅行ノススメ』の中で、旅と旅行は、たんなる表現の違いをこえて、本質的に異なるものとみなした方がよいとしています。

「旅」は、苦行であるが、目的は別(人生の深い意味を考えるなど)にあり、旅行はそれぞれのものが目的になるような移動である。「旅行」には、明るく楽しいイメージが結びついている。「旅行」は、移動に際しての無用な苦勞や危険が取り除かれてできあがるものであり、交通機関の発達や交通網の充実、そして宿泊設備・宿泊業の隆盛があって成立する。

『自分探しの旅』とよく表現されますが、『旅行』ではなく、『旅』でなければならないことがよく分かります。附属中学校では、『旅を通して真の附中生になる』とよく言われていました。それはなぜか？当校の教育目標『生き方を求めて学ぶ生徒』に最も迫ることができる教育活動の一つであるからだとは考えています。

これまでの附属中学校の「旅」の目的地は様々でした。

- ・1977年までは、長野、福島、栃木、東京・箱根、岩手、奈良・京都方面を目的地とし、「修学旅行」と言っていた。
- ・1977年から「旅」と言うようになった。1996年までは、木曽路、尾瀬、出羽三山、塩の道の旅として、ひたすら歩き、民宿に分泊した。

観光旅行なら、家族や友達といつでも行けます。沖縄には、『いちやりばちよーでー』という素敵な言葉があります。この『沖縄の旅』で、人に会い、人の考え方に触れ、自らの生き方に還元する——そんな『旅』になることを心から願っています。



民泊の方々と涙の別れの様子
(平成17年度沖縄の旅より)